

玉野市立小中学校適正規模 ㊦ 適正配置計画

説明会（山田小学校・胸上小学校）

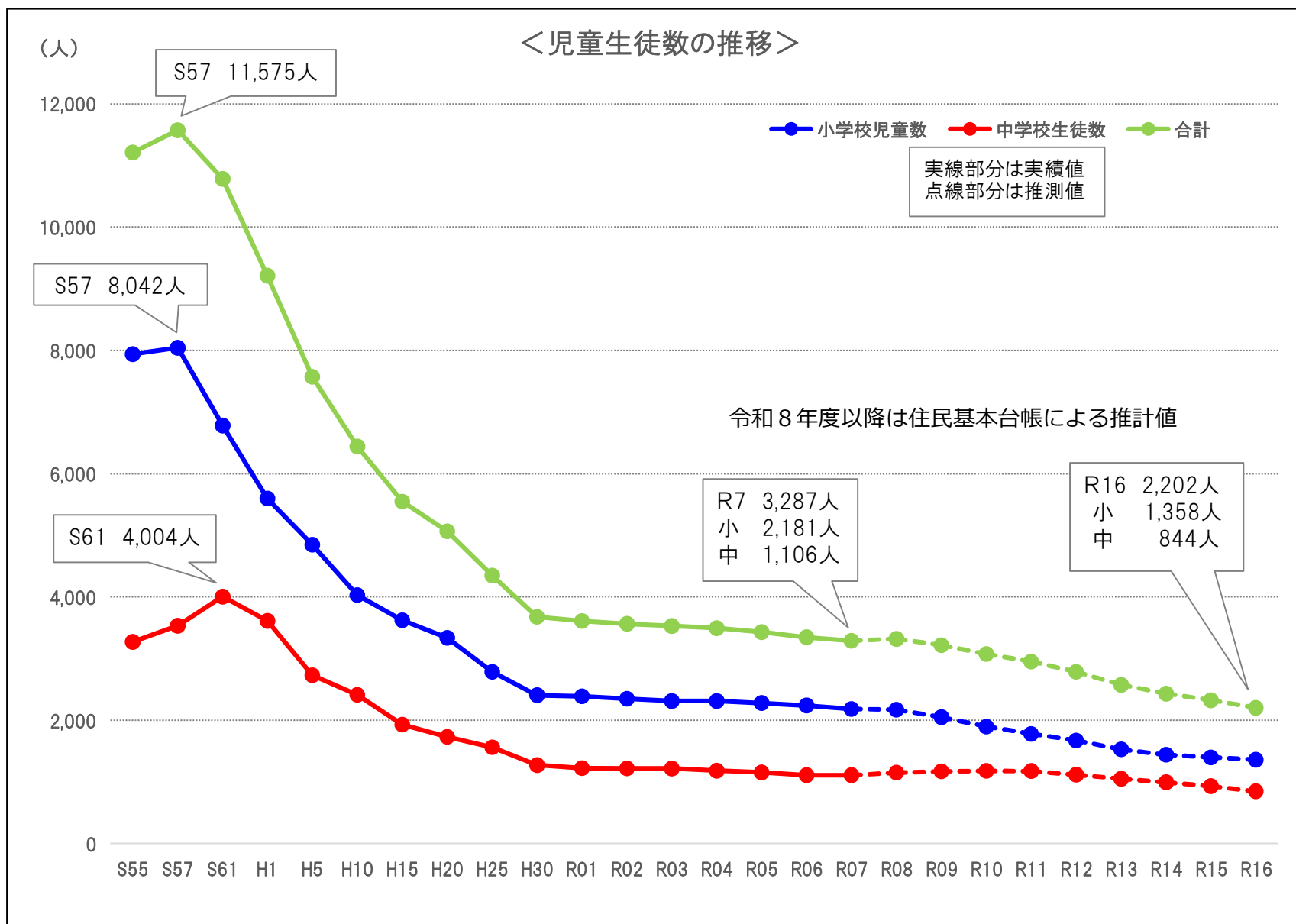
計画HP



令和 8 年 6 月

玉野市教育委員会

市内の児童生徒数の現状



玉野市の課題（児童生徒の減少を背景として）

☑ 学校運営

- グループ学習、運動会などの学校行事について、日常的に一定程度の規模を確保することが困難
- 「多様な考え方とのふれあい」や「多人数で力を合わせて課題解決に取り組む」のための教育環境の確保が困難
- 複式学級が生じる程度の過小規模校では、小規模校の課題が大きくなっている



☑ 学校施設

- 学校施設83棟中、54棟（65%）が昭和60年度以前に建設されるなど老朽化が進んでいる
- 将来的な在り方が決まっていない状況では、大幅な設備投資が困難（改築・大規模改修や最新の教育設備の導入など）



適正規模化の方針

計画の考え方

「玉野市の子どもたちにとって、より良い教育環境とするために、学校はどうあるべきか」という教育的な視点を第一に考える。



計画の目的

中長期的な視点をもって、学校再編を行い、新たな時代を生きる子どもたちにより良い教育環境を提供し、玉野市の教育の質を一層向上させる。



再編の方向性

【ソフト面】

一定数以上の児童生徒が在籍する学校規模が確保され、集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら、一人一人が資質・能力を伸ばしていける環境を整える。

【ハード面】

計画的な改築・大規模改修、必要となる教育機器の導入など、方向性の示された学校施設や設備に集中的に経費を投入することで、教育環境の改善を図る。



本市が目指す「学び」の姿

- 04 -

本市が目指す「学び」とは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めることにより、「深い学び」を実現し、「たくましく、学んでのびるたまのっ子」を育成することです。

個別最適な学び

違いを尊重し、その人の方法やペースで進める学び



学びの姿

- ・子ども一人ひとりの違いに合わせた指導により、基礎・基本の確実な定着を図る
- ・子どもの興味・関心に応じたテーマを選んで追求するなど、子ども自身の主体性を引き出す

育てたい能力

- ・自分から取り組む力
- ・途中であきらめず上手に続けていく力

目指す環境

いろいろな学び方の中から、自分にあった学びに出会える

協働的な学び

仲間と考えを深める学び



学びの姿

- ・「一つの正解」を求めるだけでなく、多様な意見に触れて視野を広げる
- ・お互いの意見の「ズレ」や「違い」をきっかけに、対話を通じて新しい考えや解決策を生み出す

育てたい能力

- ・物事を多角的に、深く考える力
- ・みんなで力を合わせる協調性
- ・相手の立場に立って考える思いやりの心

目指す環境

様々な意見や解釈に触れ、見方・考え方が広がる



深い学び

知識を覚えるだけで終わらせず、「なぜそうなるのか」をしっかりと理解する学び





「深い学び」につながるプロセスを5年生社会科の「食料生産（問題：日本の食料は、これからも安定して手に入るのだろうか？）」を一例に説明します。

Step
01

個の「自問」

一人ひとりが資料や教材を、自分の暮らしと結びつけて疑問を持つ。



「外国から買うものが多いな。」
「暮らしに影響はないのかな？」

Step
02

みんなの「対話」

友達と意見交流により、新しい視点が広がる。



「Bさんの内容は知らなかった。」
「同じ資料でも見方が違うな。」

Step
04

最終的な答えの「発見」

一人ひとり違う最終的な答えを見つけ、新たな課題へ発展する。



「地産地消を大切にしたい。」
「工業は同じ状況だろうか？」

新たな疑問の発生

Step
03

考えの「討議」

意見をぶつけ合い、見方・考え方を広げる。



「作物は国内で作るべきだ。」
「ある程度の輸入も必要だ。」

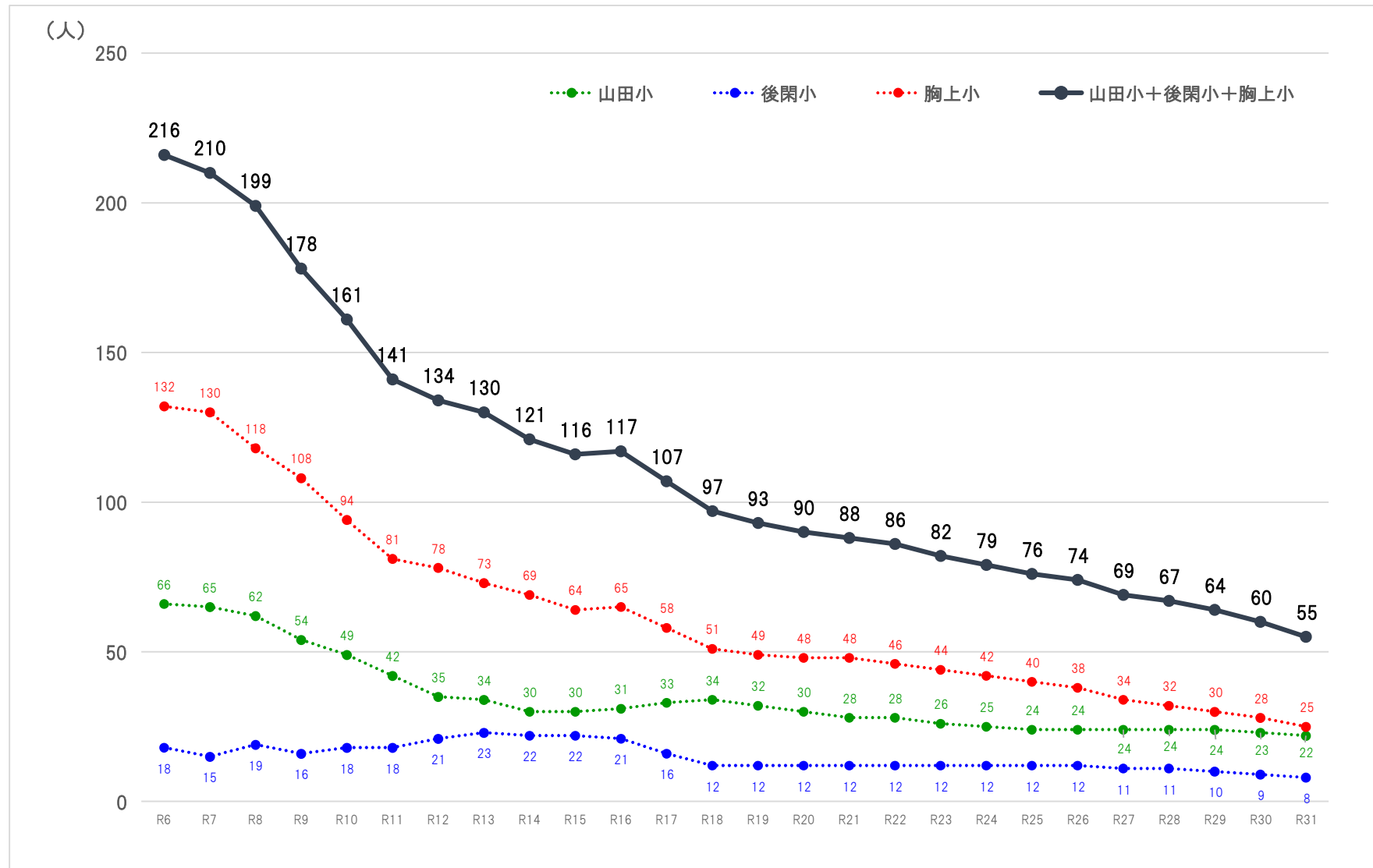


自分の考えを持ち、友達とのやり取りを通して、子どもたちは学びを応用し、より理解を深めていきます。この「深い学び」を実現するために、**再編を通して**、少人数による固定されがちだった関係性から、適度に多様な仲間がいる環境へと広げ、**深い学びに欠かせない「多様性」が日常になる教育環境を目指します。**



山田・後閑・胸上小学校の児童数の推計

(住民基本台帳による推計値)



山田・後閑・胸上小学校の学級数の推計



■ 山田小学校

R10年度には、複式学級が生じる見込み。その後も小規模化が進む見込み。

■ 後閑小学校

R03年度以降完全複式学級となっており、学校運営上の著しい課題が出ている。
R09年4月に胸上小学校に編入予定

■ 胸上小学校（鉾立小含む）

令和16年度まで複式学級が生じない見込み。児童数は減少傾向。

 : 複式学級

学校名	R06		R09		R10		R11		R16	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
山田小	66人	6学級	54人	6学級	49人	5学級	42人	5学級	31人	4学級
後閑小	18人	3学級	16人	3学級	18人	3学級	18人	3学級	21人	3学級
胸上小 鉾立小含	132人	6学級	108人	6学級	94人	6学級	81人	6学級	65人	6学級

具体的な再編の内容（山田・後閑・胸上小学校）

●再編の時期

年 度	再編内容	位 置
令和10年度 (2028年度)	山田小、胸上小を統合する。 後閑小はR9年度に胸上小に編入する。	胸上小

●再編のスケジュール

学校名	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R15年度
胸上小	→	準備委員会設置	編入	統合			→
後閑小	→						
山田小	→						

再編に当たっての留意点

● 地域説明会で多く上がった声

「通学の距離が長い」
「道路が狭く、自転車も歩行者も危険」
「街路灯がなく道路が暗い」 など



通学路の安心・安全の確保

● 通学路の考え方



・ 通学距離の目安

区 分	通学距離の目安
小学校	徒歩通学路範囲 <u>原則 2 km以内</u> おおむね 2 km以上の区域は、公共交通機関又は通学用バス等を利用

・ 通学費負担

再編後の指定学校への通学費は全額市が負担します。（指定校変更制度を適用した生徒は除きます。）

・ 安全対策

危険箇所の再点検と歩道整備や街灯など道路管理者等に対する働きかけを徹底します。

遠距離通学の範囲（目安）



再編準備委員会について

学校再編に向けて、具体的な準備・開校等を円滑に推進するために再編準備委員会を設置する。

■メンバー

行政職員、学校教職員、保護者代表、地域代表など50名以内で構成

■内容

学校の名称や校歌、校章をはじめ、通学のことや制服、PTA、学校運営に関することなどについて協議する。

各部会ごとに1か月から2か月に1回程度集まって協議する。

(一例)

総務部会 : 校名、校歌、校章、式典、地域の交流等に関すること

PTA部会 : PTA組織の統合、制服や体操着等に関すること

学校運営部会 : 学校運営、教育内容、学校間の交流等に関すること

通学安全部会 : スクールバスの運行、通学路の交通安全等に関すること



学校跡地の利活用について

令和 8 年 6 月 2 9 日
玉野市政策企画課

※現在策定作業中の「学校跡地利活用基本方針」の一部を抜粋した内容となっています

1 跡地利活用の基本的な方針

公共利用に限らず、民間活力の活用等も視野に有効活用を目指します
施設全体の利活用に限らず、校舎等の一部の利活用など、幅広く検討します
活用が見込めない場合は、施設の処分（解体・撤去）も検討します
検討段階においては、地域の意向を確認しながら進めます
活用が決定するまでの間、跡地施設の暫定的な利用を可能とします

2 検討する上での主な留意点

留意点	考え方
避難場所の確保	災害時における地域住民の安全安心の確保に留意します
地域への配慮	活動場所の調整を図るなど、地域意向に配慮します
民間活力の活用	民間活用により、地域の雇用創出や活力向上等を図ります
法令等の制約	都市計画法による規制等との調和を図ります

3 検討の進め方

個別跡地ごとの利活用の検討は、以下の手順で進めます

